

産業廃棄物実態調査【調査票その1】
(平成26年度実績)

(記入例)

本調査で対象とする「産業廃棄物」は事業活動に伴って生じた廃棄物のうち法令で定められた20種類及び特別管理産業廃棄物を指します。
(業者等に売却したのも対象となります。)

「産業廃棄物」の具体的な内容は、別紙「1. 産業廃棄物分類コード表」を参照してください。

なお、「産業廃棄物」が発生しない場合でも調査の対象となります。その場合は、本ページのみご記入の上、調査票を返送願います。

《 記入上の注意等 》

- 本調査は、平成26年度（26年4月1日から27年3月31日まで）の1年間に発生した廃棄物を対象とします。
- 本調査は医療施設単位で行いますので、調査票が送付された病院・診療所に関してお答えください。
調査票が送付された病院・診療所以外に支所、分所等が所在しても、それらについては調査の対象となりません。
- 調査票への記入に際しては、別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考にしてください。
- 回答いただきました内容につきましては、統計数値として処理いたしますので、個々の事業所名を公表したり、調査の目的以外に使用することはありません。

締め切りは、平成27年6月30日(火)です。

| | | | | |
|-------------|-------|----------------------------|------|----------------|
| 医療施設 の概要 | 事業所名 | 〇〇病院 | | |
| | 所在地 | 〒〇〇〇-〇〇〇〇 富山県〇〇市△△町□□番地 | | |
| | 記入者氏名 | 〇〇 △△ | 担当部課 | 管理部 |
| | | | 電話番号 | (〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇〇 |

| 従業者数 | 病床数 |
|---|--|
| 貴事業所の平成27年3月31日における従業者数を記入してください。 従業者にはパート等の臨時従業者及び役員等を含みます。 | 平成27年3月31日における病床数を記入してください。 |
| 平成25年度 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="8"/> 人 | 平成25年度 <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="0"/> 床 |

平成26年度の1年間に貴事業所で産業廃棄物は発生しましたか。該当する番号を○で囲んでください。

① 産業廃棄物が発生した
『産業廃棄物』に指定されている品目を別紙「1. 産業廃棄物分類コード表」に示します。
なお、事務所から発生する紙ごみ、生ごみ等は「産業廃棄物」ではなく、事業系の「一般廃棄物」です。

② 産業廃棄物は発生しなかった

【調査票その2】に産業廃棄物排出・処理状況等を記入願います。

【その2】へ
(次ページ)

調査はこれで終了です。

産業廃棄物実態調査票【調査票その2】の記入要領・記入例

調査対象期間

●本調査は、平成26年度（26年4月1日から27年3月31日まで）の1年間に発生した産業廃棄物を対象とします。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～③までご記入願います。

発生量について（③年間発生量）

●自社で「焼却」・「脱水」等の処理を行っている場合は、その処理を行う前の「名称」と「数量」をお答え下さい。

○自社で焼却している場合の発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Cを参考にしてください）

木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○自社で脱水(乾燥)している場合、発生した廃棄物とは脱水(乾燥)前のものです。

汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式等より試算願います。

$$\text{〈式〉}：(\text{脱水<乾燥>前の汚泥発生量}) = (\text{脱水<乾燥>後の汚泥量}) \div (100\% - \text{脱水<乾燥>後の含水率}\%) \times (100\% - \text{脱水<乾燥>前の含水率}\%)$$

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。

○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。

○含油廃水を油水分離した場合 → 油水分離後の「廃油」と「汚泥（油でい）」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

●廃油（機械油など）について

○ドラム缶の本数で把握されている場合は、1本=180kg（200リットル）

○一斗缶の本数で把握されている場合は、1本=16.2kg（18リットル）として換算してください。

記入について

●同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①「廃棄物の名称」の欄から行を分けて記入してください。

●処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票を参考にして記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

記入例

産業廃棄物となる紙くずは、特定の業種に限られます。
※オフィスから排出されるコピー用紙などは、産業廃棄物に該当しません。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不規則の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

| No. | 産業廃棄物の名称 | ②分類コード | ③年間発生量 | 単位 | ④中間処理方法 | | ⑤中間処理後量 | 単位 | ⑥処理処分等の方法 | ⑦処理、処分又は再生利用先の名称 | ⑧地域コード | ⑨中間処理方法 | | | ⑩中間処理後量 | 単位 | ⑪処理後の状況 | ⑫(生)利用・埋立の場研 | ⑬(生)利用・用途 | | |
|-------|----------|---------|--------|-------|---------|------|---------|-----|-----------|------------------|---------|---------|------|------|---------|----|---------|--------------|-----------|------|--|
| | | | | | 1次処理 | 2次処理 | | | | | | 3次処理 | 1次処理 | 2次処理 | | | | | | 3次処理 | |
| 記入例:A | 1 | 感染性廃棄物 | 7300 | 360 | kg | | | kg | → | 5 | (株)〇〇産業 | 201 | 1 | 20 | | 36 | kg | 1・2 | 201 | | |
| 記入例:B | 2 | 感染性廃棄物 | 7300 | 3,700 | kg | 1 | | 250 | → | 6 | △△産業 | 201 | 20 | | | | kg | 1・2 | 201 | | |
| 記入例:C | 3 | 廃酸 | 0400 | 400 | kg | | | | → | 5 | (株)〇× | 015 | 13 | 5 | | 4 | kg | 1・2 | 015 | 2 | |
| 記入例:D | 4 | 廃アルカリ | 0500 | 400 | kg | | | | → | 5 | (株)〇× | 015 | 13 | 5 | 20 | | 3 | kg | 1・2 | 015 | |
| | 5 | 廃プラスチック | 0600 | 500 | kg | | | | → | 5 | (株)□□ | 202 | 1 | 20 | | 30 | kg | 1・2 | 210 | | |
| | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1・2 | | | |
| | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1・2 | | | |
| | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1・2 | | | |
| | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1・2 | | | |
| | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1・2 | | | |

記入例:A

感染性産業廃棄物が年間1200リットル(360kg)発生した。

これらは、すべて富山市の(株)〇〇産業に処理を委託した。

〇〇産業では、焼却処分後の燃え殻36kgは富山市内で埋立処分した。

記入例:B

感染性産業廃棄物が年間3700kg発生した。

これらは、自社の焼却炉で焼却を行い、焼却灰が250kg発生した。

焼却灰は、すべて富山市の△△産業(株)に処理を委託した。

△△産業では、これらをすべて埋立処分した。

記入例:C

レントゲン定着廃液(廃酸)とレントゲン現像廃液(廃アルカリ)がそれぞれ年間400kg発生した。

これらは、すべて新潟県の(株)〇×に処理を委託した。

レントゲン定着廃液は、中和処理後、脱水したものを4kgから銀を回収した。

レントゲン現像廃液は、中和処理後、脱水したものを3kgは新潟県内で埋立処分した。

記入例:D

プラスチックくずが年間500kg発生した。

これらは、すべて高岡市の(株)□□に委託した。

(株)□□では、焼却処理後、南砺市内で埋立処分された。